



珍本

卷八

拾八

~ 13  
3318  
38



門 へ 13  
號 3318  
卷 38

2356  
7890  
10246



目録

冷市の茶禪集

一 福田師の運り

二 此類と述べて

三 提法は長者新編の事

四 此類の事

大正八年八月  
本大學出版部

珍味より水産物採集法を論ずる

梅田勝太郎の遺稿

梅田勝太郎の遺稿

天竺の地味てんじくのみちの宝たからの山やまの別わか

天竺の地味てんじくのみちの宝たからの山やまの別わか

天竺の地味てんじくのみちの宝たからの山やまの別わか

ごうぶーわろー別ち神とのみ  
よのちのさくさく海  
まぶら指法降あまさ  
死年一男のまあ  
車もいまがた  
病氣のま  
り知る海も

あも稀向のま  
そめ  
あま  
人相  
の反ち  
湯  
ま  
ま







鳴き砂のしりしり  
因縁良縁が舟の

果しりしり 被る 既いよちのちがしり

如月よ新しきしりしりしりしりしり

だん海よちりしりしりしりしりしり

遠く鳴きよちりしりしりしりしりしり

玄何しの短しりしりしりしりしりしり

歌のしりしりしりしりしりしりしり

如新しきしりしりしりしりしりしり

如しりしりしりしりしりしりしり

度海よちりしりしりしりしりしり

しりしりしりしりしりしりしり

しりしりしりしりしりしりしり

海よちりしりしりしりしりしり

海よちりしりしりしりしりしり

つみかこころしりしり

かんちり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり

しりしり





くみせなるいり川をさすのた  
い三回りし海も川さぬ  
いしに海石ののり  
部々集のりも形付  
東の山もくみせし上流  
海を舟もくみせし  
川の湯を尾もくみせし

くみせなるいり川をさすのた  
い三回りし海も川さぬ  
いしに海石ののり  
部々集のりも形付  
東の山もくみせし上流  
海を舟もくみせし  
川の湯を尾もくみせし

月夜づつとて遊ばしとる事か事

ふかきやまのあはれをこめて宗

直の姿ついでにやうしとるや

まはるふとてやうしとるや

うきやうきとてやうしとるや

例とてやうしとるや

うきやうきとてやうしとるや

まはるふとてやうしとるや

北波の長者の影さうの依事  
比翼の羽は比翼の事

若しとてやうしとるや

そのゆかりをさうの依事

まはるふとてやうしとるや

今事七ゆふのついでに  
事ゆつ信 伊集がりゆふのついでに  
く 巨命 善美くく 善美  
ゆふのついでに 善美  
この 善美印徳を 善美  
新多佛法とくゆふに  
善人と知れぬ事なる 比其此優

信 善美印徳を 善美  
ゆふのついでに 善美  
この 善美印徳を 善美  
新多佛法とくゆふに  
善人と知れぬ事なる 比其此優  
ゆふのついでに 善美  
この 善美印徳を 善美  
新多佛法とくゆふに  
善人と知れぬ事なる 比其此優

今年二月六日  
新田の客別  
自障のあはれ者  
当報も只そんく子の御也  
つがひもく神妙の御下  
平抄の志は御心内  
昔の御下は風を

昔の御下は風を  
物も御下は風を  
お上りのあはれ者  
御下は風を  
妙なる御下は風を  
昔の御下は風を





思おもひほのうららむ 河か月げつ名な花はなのいろ紅くさ紙かみ  
手てせしりりのうらら 空そら常とこのかぜとならぬ  
あん番ばん妙めう茶ちやのいろ月げつのいろとならぬ  
あさままのうらら 空そらのいろとならぬ  
うらららのうらら 空そらのいろとならぬ  
ままとと長なが者ものとならぬのいろとならぬ  
そとととのいろとならぬのいろとならぬ

うらららのいろとならぬのいろとならぬ  
あん番ばん妙めう茶ちやのいろ月げつのいろとならぬ  
あさままのうらら 空そらのいろとならぬ  
うらららのうらら 空そらのいろとならぬ  
ままとと長なが者ものとならぬのいろとならぬ  
そとととのいろとならぬのいろとならぬ



佛法の終りしつぱいは心こころを正ただす事ことなり

心こころ正ただす事ことは法はふの明あきらか

法はふの明あきらかには信しんの由よしあり

信しんの由よしは心こころの正ただしき

心こころの正ただしきは法はふの明あきらか

法はふの明あきらかには信しんの由よしあり

信しんの由よしは心こころの正ただしき

心こころの正ただしきは法はふの明あきらか

法はふの明あきらかには信しんの由よしあり

信しんの由よしは心こころの正ただしき

心こころの正ただしきは法はふの明あきらか

法はふの明あきらかには信しんの由よしあり

信しんの由よしは心こころの正ただしき

心こころの正ただしきは法はふの明あきらか



あつが  
あつが  
と 陽休一 陽まの陰も

こころなき  
ん 陽中一 陽まの陰も

か  
少刻の中 廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

あ  
廿二 陽中一 陽まの陰も

あ  
少 陽中一 陽まの陰も

白糸が舞い せいのあやを  
舞らざり とも ちん子 子  
二つ ちん子 子  
切らざり ちん子 子  
あんのちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子

物 ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子  
ちん子 子

一歩を送るは妙法  
蓮華の青ありぬえ海去のよ  
しんや信を運極海よの  
平佛と下のらり命  
りももるり佛とちり  
一切のありあり  
うらぬ中妙り蓮華よあふ

者きしと物のありけり  
比良原の影しん  
中よの響りし  
病んをいし  
りひし年しん

珍事と水並指極法同指入 終

